

創立 昭和32年4月19日
会長 エレクト 菅生 康 清
副会長 高橋 靖
幹事 関 俊 昭
広報会報記録 中 林 隆 男



事務局（例会場）

橿原市久米町 652-2
DAIWA ROYAL HOTEL THE KASHIHARA 4F
TEL/0744-28-2801（直通）
FAX/0744-28-2802
E-mail/krc@jeans.ocn.ne.jp
TEL/0744-28-6636（ホテル）

例会日

毎週金曜日
12時30分～13時30分

Vol. 61 No. 37 (2017-18)

2018(平成30)年4月27日発行

4月は、「母子の健康月間」(Maternal and Child Health Month)です。

第2973回例会報告書

2018(平成30)年4月13日

司会 副SAA・尾上隆志会員
R.song 4つのテスト
ソング・リーダー 吉川弘晃会員
ピアノ奏者 京田留奈さん
乙女の祈り、奏(かなで)

ゲ ス ト

卓話講師：日本銀行 大阪支店 副支店長
福地慶太氏

ビ ジ タ ー

林田壽昭君(大和高田 RC)

出 席 報 告

正会員 44名
(4/13) 出席者 30名 出席率 75.0%
正会員 43名
(3/22 補正) " 29名 " 83.33%

ニ コ ニ コ 箱

◎本日の卓話の講師として、日本銀行 大阪支店 副支店長 福地慶太様をお招き致しました。よろしくお願ひ致します。…………野口洋司会員
◎しばらく欠席していたので。…………永田晶三会員

会 長 挨拶

○皆様こんにちは。桜も散り、最近では気温が20℃を超える日が続いている。気候の変動が激しい時期なので、体調には気を付けて頂きたいと思う。
○4月7日(土)・8日(日)に地区大会が開催された。当クラブからは18名の方にご登録頂いた。私と関幹事は7日(土)の会長・幹事・地区委員長会議及びRI会長代理ご夫妻歓迎晩餐会にも出席させて頂い

た。今回の地区大会は3000名程が参加され、とても盛大に開催された。田中ガバナーはじめ京都東 RCの皆様のご尽力の賜物だと思う。

○AI ロボットについて、皆様も最近よく耳にされると思う。私はそれに関わる業種であり、昨年からはさまざまなところとの提携を模索してきた。そして今年になって大まかな方向性が決まり、本格的に AI ロボットのソフトウェアの開発・販売という形になっていくのだが、もうすでに奈良県でも事務処理の AI ロボットが2件ほど導入されている。これから5年先、10年先の近いうちに身近なものになっていくと思う。また、工場内ではアームロボットや運搬用のロボット、物流、介護、医療などさまざまな分野で AI ロボットが導入されていくだろう。今はまだピンときていない方もおられると思うが、これからどんどん進化していくのではないかなと思う。

幹 事 報 告

(代読：下辻真人副幹事)
△地区より、地区大会ご出席のお礼状
※詳細は掲示板にて。
△NPO 法人スペシャルオリンピックス日本・奈良より「若草山ウォーク」の案内 ※詳細は掲示板にて。
△例会変更ほか(詳細は掲示板にて。)
・やまとまほろば RC
5月10日のメイクアップ受付を変更
5月10日(木) ビジター受付 12:00～12:30 例会場→ビジター受付なし。
・大和郡山 RC
①4月30日(月)・5月7日(月) 休会
②5月28日(月) 夜間例会のため、変更
→18:30～19:30、於：グラントサンピア
※いずれもビジター受付なし。
・奈良東 RC
5月2日(水) 休会 ※ビジター受付なし。

「最近の金融経済情勢」

昨日、全国 32 か店の日銀支店長が、四半期振りに一堂に会し、景気の現状を討議する日銀支店長会議が行われ、各地域の景気の現状を点検した。関西については、「安定したペースで緩やかに拡大している」との評価を行った。北海道については、景気判断を引き下げたが、これは、一昨年の台風被害後の復旧工事の一巡から公共投資が減少に転じたことが背景。わが国全体をみると、景気の改善が続いている。

ところで、景気の状態についての表現には幾つかあり、例えば「回復」と「拡大」など、それぞれの違いが分かり難いとの指摘を頂くことが多い。「拡大」は最も強い表現で、それに次ぐ段階が「回復」となる。使い分けは、経済全体の「需要」が、「供給能力」を超える状態が継続する見通しにある場合に「拡大」を使う。

「需要」が「供給」を幾分上回っている状態の場合には、「回復」を使うといった具合だ。

次に、関西の景気を点検する。関西企業の方々の景気に対する見方（景況感）を短観調査で確認すると、+15 ポイントと 1991 年以來の高水準にある。本年 2 月以降の世界情勢を振り返ると、日米で株安が進行し、貿易摩擦を材料にした為替円高化など、景気への見方が悪化する材料があった中で、こうした高い水準が維持されたことは、企業の方々の景気への自信を窺わせる。自信の背景は、実需の強さではないかと思われる。この点を幾つかのデータで確認したい。

第一は輸出と生産の増加である。電気機械、情報通信を中心に、関西からの輸出は増加を続けている。その裏付けとして生産活動も活発化している。輸出好調の背景は、新型スマホ向けの需要、あるいは AI、IOT などを実現するための各種電子部品、あるいは半導体を製造するための機械装置への需要が高まっていることにある。

第二に利益と設備投資の増加である。全国の利益率の水準は、過去の景気回復局面に比べて高い状態が続いている。関西でみても、企業の利益計画は、2017 年度で前年比 2 割増であり、2018 年度も高水準が続く見込みである。利益水準の上昇を受けて、関西企業の設備投資も 2017 年度は前年比 1 割となる見込みであり、2018 年度も高めの水準が計画されている。

第三にインバウンド消費である。インバウンド消費は、今や関西の代名詞と言ってもよいほど好調で、直近データでは前年の 1.4 倍となっている。

こうした景気の持続的な改善は、人手不足といった現象を生んでおり、特に中小企業、非製造業で強まっている。労働需給のタイト化は、賃金の上昇に繋がっており、特に奈良県では、関西全体に比べはつきりと平均賃金の上昇がみられている。

もっとも、賃金の上昇に応じて、個人消費全体が盛り上がっているかという点、未だそこまでは達し得ていないようだ。非正規雇用の分野での賃金上昇圧力が強く、企業からみると固定費の上昇に繋がる正規雇用の分野での賃金は、上がってきているとはいえ、本格化していないことが背景とみられる。

日銀の現在の金融政策は、人手不足感の強まりが賃金上昇に波及し、物価水準の上昇に繋がっていくメカニズムを想定している。現時点での物価上昇率をみると、1%（総合指数除く生鮮食品）であり、現在の金融政策の目標である 2%の物価上昇からすると道半ば。

次に、先行きの景気展望について申し上げたい。直近の景気展望は、①2019 年度にかけて景気拡大が続く、②消費者物価指数前年比 2%増加（金融政策の目標）は 2019 年度に達成し得るであろう、というものである。景気拡大継続見通しの背景の一つは、海外景気の持続的拡大である。また、物価上昇率が 2%に達し得るとする背景は、人手不足感の強まりと賃金・物価には歴史的に相関関係が確認されていることなどである。

もっとも、景気にはリスクが付き物。中東情勢、米中貿易摩擦等々が、今後私どもの描く景気シナリオにどのような影響を与えていくか、注意深く見守っていききたい。



【新入会員の横顔】2018（平成 30）年 4 月 1 日入会

【氏名】河村善一

【生年月日】

1968（昭和 43）年 3 月 27 日

【職業分類】児童福祉

【勤務先・役職】

〒633-0053

桜井市市谷 480 番地

社会福祉法人 飛鳥学院

常務理事 院長

<TEL 0744-42-2831、FAX 0744-43-7080>

